

2023 年度 武田中学校高等学校 インターアクト部活動報告



2023年度 武田中学校高等学校 インターアクトクラブ活動報告

当クラブは月、水、金曜日を全体活動日とし火、木曜日は自主活動日としております。本稿では紙面の都合で通常の活動は割愛させていただきます。

<7月>

被爆樹木 みかんの木の植樹とPlaque(飾り板)作成

「爆心地から半径2km以内にある、原爆を生きのびた31種類161本の樹木を、「被爆樹木」として認定しています。75年間草木も生えないと言われた原爆直後の広島で、再び芽吹いた樹木は、多くの市民に生きる勇気と希望を与えてくれました。被爆樹木は現在も、被爆による傷を抱きしめるように、静かに雄々しく生きています。」

(ANT-Hiroshima HP より)武田高校インターアクトクラブは被爆樹木のミカンの木を譲り受け、この木を大切に育てながら、木と一緒に平和のメッセージを国内外に発信していきたいと考えています。この度はG7サミットが広島で開催されたことも記念して、ミカンの木のPlaqueを作成しました。インターアクト部部室の前には、福山市ホロコーストミュージアムから譲り受けたアンネフランクのお父さんオットーフランクさんが作られた“アンネのバラ”と一緒にミカンの木が並んでいます。



<8月>

インターアクト部 OG・OBとの交流会

8月10日、夏休みで帰省しているOB OGを招いて、交流会を行いました。この日は9月の文化祭で販売するインドネシアの焼き鳥「サテ」の試作および試食会も行いました。

広島大学4名、東京外国語大学、立命館大学でそれぞれ経済学、国際関係学、看護学、米英文学および総合科学を専攻している卒業生から大学生活や課外活動について、大学生の生の声を聞かせてもらいました。これから長期留学に挑戦する卒業生もいて、現役生たちは大いに刺激を受け、志望校を考える際のヒントを得ることができました。



オープンスクール

オープンスクールではインターアクトでブースを出展し、これまでにクラブが交流を持ってきた国々の国旗を見せて、その国名を当ててもらおう、というゲームを行いました。我々は東欧、中東、アジアといった一般的に日本ではなじみのない国々との交流を積極的に行っているため、正解できる生徒は少なかったです。来年たくさんのインターアクターが入ってくれるように元気よく運営しました。



<9月> 文化祭

文化祭では当インターアクト部が積極的に交流を行ってきたインドネシアの伝統料理である「サテ」の販売を行いました。サテは鶏肉にインドネシア独自のソースを絡めて味付けをした焼き鳥です。インドネシアの方にソースの作り方を教わり、インドネシアの調味料をインターネットで購入して、本格的な味に挑戦しました。前日は寮生が夜遅くまで残って1000本のサテを準備しました。当日は非常に好評で閉会の2時間前には完売させることができました。



広島文化学園大学 HBG はなまるキッズでのボランティア活動

広島文化学園大学が主催される、障がいのある子供たちのアダプテッド・スポーツ教室「HBG はなまるキッズ」に当クラブから2名が参加させていただきました。普段頻繁に障がい者の方のサポートをする機会を持つことはないのですが、最初は不安だったようですが、大学の先生やボランティアとして参加されていた保育士の方、大学生が丁寧にサポートして下さり、多くのことを学びました。体が不自由であってもスポーツを楽しむことができるというポジティブなことを経験し、今後の活動に生かしていきます。



<10月>

パレスチナ ガザ地区よりゲストをお迎えしました

10月6日(金) 地中海東部に位置するパレスチナのガザ地区から3名の学生及び国連パレスチナ難民救済事業機関＝UNRWAの職員の方々が来校されました。インターアクト部は8年前からガザ地区との交流を続けており、今回のイベントはインターアクト部にとってはもちろん、学校にとっても大きな意味を成す機会となりました。キャプテンがこれまでの8年間の活動の歩みをプレゼンし、ゲストたちは熱心に嬉しそうに聞いてくれました。メインイベントは「ガザの声を聞く」として、ガザ地区の学生たちが日々感じていることや、世界に向けてのメッセージを聞かせてもらいました。日々命の危機にさらされていること、電気が6時間しか使えないこと、ガザ地区から自由に外に出ることができないことなど、我々の日常とはかけ離れたガザでの生活の様子を聞き、武田の生徒たちは色々なことを考えさせられました。特に「私たちが望んでいることは皆さんが当たり前にあたえられている人権を与えられることです」というメッセージは印象的でした。そして口々に教育の重要性、教育のありがたさ、教育こそが希望の光なのだと言われるのを聞いて、教員として背筋が伸びる思いをしました。イスラエルとの紛争下で、生まれた時から常に厳しい状況に置かれながらも、希望を持って将来の目標について力強く語ってくれるガザの学生たちは武田生に大切な学びを与えてくれました。

奇しくもこの交流の翌日、10月7日にパレスチナとイスラエルの大規模衝突が発生しました。直接会って交流した分、彼らを案ずる気持ちが強くなり、いたたまれない気持ちになりました。我々には直接的に彼らの役に立てることができないことが歯がゆいですが、広島にしながらできることを考えて行動をおこしていこうと考えています。



ハロウィーン ジャックオーランタン作成と展示

例年は学校全体に参加希望者を募って実施しているジャックオーランタン作りですが、物価高騰の影響もあり十分なサイズのパンプキンを十分な数準備することが難しかったため、今年はインターアクト部のみでの実施となりました。各部員がランタンのデザインを考えて、それを全員の前でプレゼンし、投票によって3デザインを決定しました。そして3グループに分かれて彫っていきました。どのパンプキンも皮が分厚く、最初に穴を空ける場所に苦戦しましたが、これまでに50個近くのジャックオーランタンを作ってくれたサウザー先生の熟練の技を伝授してもらいながら彫り進めました。



＜11月＞

国際フェスタ2023での出展

広島平和記念資料館の広島国際会議場で行われた「国際フェスタ2023」にブースを出展させていただき、ガザの子ども達が描いた平和の絵を見ていただく機会を得ました。国内外から来られた多くの方々が足をとめて下さり、武田の生徒の説明に耳を傾けてくださいました。「勉強になりました」「中高生なのに詳しい知識を持っていて素晴らしいですね」「一日も早く戦争が終わってほしいですね」といった言葉をかけていただきました。また松井一實広島市長からも「若い皆さん、これからも頑張ってください」という激励の言葉をいただくことができました。



＜12月＞

インドネシアの高校、ポーランドの高校と同時に交流

毎年恒例のポーランドの高校とオンラインで交流しました。この日はインドネシアの高校生が武田高校を訪問中だったため、ポーランド、インドネシアそして武田の3カ国交流となりました。今年の交流では新たな試みとして、お互いが画面の前でお寿司を握って一緒に食べるというアクティビティをやりました。武田側はお米に酢を加えて酢飯を作るところから見てもらい、事前に動画で勉強した寿司の握り方をできる限り再現しました。日本に住んでいるといえども誰もお寿司を握ったことはなく、いつも食べているお寿司屋さんのお寿司とは程遠いものになってしまいましたが、とても盛り上がりました。両国ともサーモンを準備しましたが、普段魚を生食しないポーランドの生徒もインドネシアの生徒もみんな美味しそうに食べていました。

その後はポーランドの伝統的なクリスマス用の飾りの作り方を教えてもらい、続いて両国がコスプレを披露し合い、大変盛り上がりました。そして最後は恒例の、水面にロウソクを垂らし、できた形から未来を占うFortune teller candleを行って交流会を終了しました。

ポーランドと日本の時差は8時間あり、現地は朝の8時でしたが皆さん元気に活動をしてくれました。



<1月>

国際交流MOCHITSUKI イベントの開催

これまでに一緒に活動したことがある外国人の方々をお招きして、日本の伝統文化であるもちつきを体験してもらいながらワイワイ国際交流をすることが目的の恒例行事です。ウクライナ人夫婦のSashaさんとOlenaさん、アメリカ人でWorld Friendship CenterのスタッフであるMalakaiさん、ユダヤ系アメリカ人のRebeccaさん、広島市内で外国人の生活サポートをしているKenaさんが参加してくれました。餅つきと、つきたてのお餅を味わった後は、ウクライナでアコーディオン奏者として活躍されていたSashaさんが、アコーディオンの生演奏を聴かせてくれました。またMalakaiさんはウクレレを演奏してくれ、みんなで色んな歌を歌って素敵な時間にすることができました。



令和6年能登半島地震に対する募金活動

JR西条駅にて募金活動を行いました。この日は日頃からお世話になっている東広島21ロータリークラブの方々も一緒に活動してくださいました。ほとんどの生徒が街頭募金の経験がなく、最初は大きな声を出しにくかったですが、通行人の方々が協力して下さる姿に励まされ、大きな声で募金をお願いできるようになりました。実施した時間が夕方の帰宅時間だったということもあり、社会人の方、学生さんを中心に本当に多くの方々が被災地の方々を思い、復興を祈る思いと一緒に募金に協力してくださいました。この活動を通して人の優しさや温かさ、助け合いの精神を改めて学ばせていただきました。



<2月>

令和6年能登半島地震に対する募金の寄贈

校外外で実施した募金活動で集まったお金は合計で20万3219円になりました。この善意のお金を直接、被災地の方々に役立ててもらうことを優先事項としてお預入れ先を熟考し、「空飛ぶ捜索医療団“ARROWS”」と「ペット災害危機管理士会」の2団体に決定しました。2月3日(金)に団体本部のある神石高原町にお邪魔させていただきました。プロジェクトリーダーの稲葉基高医師をはじめ、たくさんのスタッフさんがご対応くださり、被災地の様子や、現地での活動内容、今後の展望やチームとして働いていくことの重要性などをお話しいただきました。特に地震が発生してから数時間で準備を済ませ、午後7時過ぎには被災地に向けて出動した際の話には、日ごろからの準備とトレーニング、そしてプロフェッショナルリズムを学ばせてもらいました。また今回の震災支援だけではなく、これまで経験された海外での支援活動についてもお話しくださり、短い時間ではありましたが非常に内容の濃い学びの時間とすることができました。



学校の近くで具体的な支援活動の可能性を探る中で、武田中学校高等学校の保護者でもある上野貴子さんが中四国支部長として活動しておられる「ペット災害危機管理士会」の活動を知るようになりました。当団体は被災地のニーズを調査し、現地で必要とされている支援物資を広島周辺から調達し、現地へ送るという具体的なアクションをされておられ、これから継続的に支援物資の仕分けや管理作業のお手伝いをさせていただけるとのことから、募金のお預け先とさせていただきました。



<3月>

ガザ地区出身の中学生3人とのオンライン交流

10月6日には奇跡的に彼らが武田中学校高等学校を訪問することができ、念願叶って対面での交流を果たしました。奇しくもその翌日にパレスチナを実効支配するハマスによるイスラエルへの大規模攻撃が起これ、それ以来、連日悲惨なニュースが報道されています。3名の生徒と先生はガザに帰ることはできず、隣国ヨルダンのアンマンにて避難生活を余儀なくされています。

私たちは彼ら3名からアラビア語やイスラム文化を教えてもらい、武田からは日本語を教えるという活動を定期的に行うようになりました。今回は、現在イスラム教徒にとって非常に大切な行事であるラマダンの時期であるため、ラマダンについて教えてもらいました。

こちらからは日常会話で役に立つ「趣味は何ですか?」「趣味は〇〇です」という会話パターンを紹介しました。ガザの3名は飲み込みが早く色々な会話パターンを反復練習して楽しんでいました。今回は如水館高校インターアクトクラブの方も参加いただきました。これからは徐々に他校にも参加を募っていき、ガザへの関心や理解を高めていきたいです。



<4月>

ランドセルプロジェクトの実施

これまで色々な場面で協働してきたインドネシアコミュニティとアフガニスタンコミュニティの、この春小学校に入学する子どもにランドセルをプレゼントしました。

インターアクト部のレギュラー活動の一つとなったこの取り組みは、武田生の保護者が寄付してくださったランドセルをピカピカに磨き上げ、外国籍の新一年生にプレゼントするというものです。ランドセルをプレゼントされた子どもはもちろん、親御さんたちも大変喜んでいましたし、過去に我々がプレゼントしたランドセルを背負って元気に小学校に通っているということを知って、国際協力をしていることを実感しています。



Chinese Caféの開催

張嘉怡さんと大東一華さんによる「チャイニーズ・カフェ」を開催しました。このイベントの目的は、武田生に中国語や中国文化を学んでもらい、同じ興味を持つ友達を作ることです。中国に繋がり深い2人が自発的に企画してくれました。今回は嘉怡さんと一華さんがそれぞれの出身地である中国の西安とハルビンについてプレゼンテーションを行いました。「歴史の深さに感動しました。」「西安の名物はおいしそう!」「ハルビンの冬のイベントはとても楽しそう。行ってみたいです!」等、参加した生徒達が感想を述べていました。



<5月>

Peace Art from GAZAの展示

広島県世羅町にある「黒瀬農園 香山ラベンダーの丘」で開催された「花いっぱいマルシェ」に参加させていただきました。花いっぱいマルシェでは各種ワークショップやハンドメイド作品のお店など16店舗が出店され、その一つのブースをお借りして、GAZA地区の子どもたちが平和を願って描いたPeace Artsを展示し、その一つ一つに込められたメッセージを来場者にお話しさせていただき、GAZAの現状や平和について考えてもらいました。たくさんの方々がインターアクトのブースに足を運んでくださり、武田生の話に熱心に耳を傾けていただきました。Peace Artsをポストカードにしたものを配布しました。持ち帰られた方がポストカードを話題にさせていただき、私たちが直接お会いできなかった方にも中東で起きてくることを考えていただく機会になることを願います。パレスチナ問題は複雑で理解することは難しいですが、多くの無実の人々が犠牲になっていることに思いを馳せていただけるきっかけ作りにこれからも取り組んでいきたいです。

